

令和7年3月4日

世田谷区立千歳中学校 保護者の皆さま

みのりの学び舎

世田谷区立千歳中学校

校長 和田 祐一郎

## 令和6年度 世田谷区立千歳中学校 自己評価 報告書

令和6年12月から、教職員を対象に今年度の教育活動に対する自己評価を実施してきました。その集計結果については別紙の通りです。また、令和7年1月から評価結果について、職員会議等で検討した内容についてまとめましたので、お知らせします。

### 1 令和6年度の重点項目への取組について

- (1) 確かな学力の育成（学習規律と自主的に学習する態度の育成）
- (2) 生徒が主体的に学校をよくしていこうとする力の育成
- (3) 互いを尊重し、認め合う心の育成

### 2 重点項目に関する取組状況について

- (1) 確かな学力の育成（学習規律と自主的に学習する態度の育成）

教員肯定的回答 100%

① 日々の授業改善に努め、個に応じた指導を充実させる。

世田谷区教育要領に則り、教材の工夫やICT活用を通して「楽しい、よくわかる、生徒が主体的に学び合う」活動を重視した授業を展開した。主体的・対話的で深い学びを進めている授業がほとんどである。生徒が自らの考えを伝える場面を多く設けている。

今後も継続して、各授業のねらいを明確にすると共に、ICT支援員と協力して、さらにわかりやすい授業を実践していく。また、対話的な学びの中で発言することが苦手な生徒がいる場合は、ロイロノートで意見を発表する方法などを試みた。これにより発言でなくても自分の意見をアウトプットできるようになった。今年度は自動採点システムが導入され採点時間の短縮はできたものの新しいアプリが導入されるたび研修をする必要があるため、業務がより増大しているように感じる。

② 適正な評価（指導と評価の一体化）

継続して校内で学習評価に関する研修を実施できた。校内での研修会の中でも生徒の努力を認める評価を今後も続けていくコンセンサスが取れた。保護者への説明会を実施できたことから、学習指導要領の理解に伴うより適切な学習評価になるよう、今後も研修を続けていく。

③ 補習教室の実施、英検等への取組を奨励する等により、生徒の学力向上に向けての意識付けを図る。

補習教室の実施、英語検定の取り組みを奨励することはできた。英語検定は第1回が157名、第2回は162名、第3回は152名が検定に取り組んだ。今年度も学校支援地域本部が一貫して援助してくれた。もちろんPTAの保護者の皆様の多大な援助を得て英語検定が開催されることに感謝している。集金に関しては今年度からオンラインでの集金を始めた。

指導の工夫で評価の高いもの

教材研究および授業研究を行い指導方法の工夫・改善がなされている 100%

体験的・問題解決的な学習が進められている 97%

(2) 生徒が主体的に学校をよくしていこうとする力の育成

教員肯定的回答回答 100%

①生徒が感動体験を体感できる、生徒による生徒のための学校行事を実現させる。

学校行事は、縦や横のつながりを意識して取り組ませている。どのように実施すればクラスや学年、全校生徒が千歳中の伝統を引き継ぎながら充実できる開催方法を考えさせる。生徒自らが考え、行動する場面を設定することで生徒は自己有用感が高まり、達成感や充実感を感じている。学校行事では、生徒の成長が見られるため練習時間を可能な範囲で最大限確保し、生徒の力を伸ばしていく。

②生徒の自律的な活動を支援する。生徒会が自ら企画して地域行事への参加や地域ボランティア活動等に取り組めるよう支援体制を整える。生徒自らの行動規範となるべく生徒が主体となって「生活のきまり（校則）」を見直す。（多様性の尊重）

生徒会の挨拶ボランティアの推進、縦割スポーツ交流など「こえろ」をテーマに新生徒会が学年を超えた千歳中のつながりを意識した企画を進めた。また生徒手帳の中に記載のある、現行で必要な項目、必要な項目のピックアップ等を行っている。生徒会や専門委員長が生徒のために考えた自分の公約を実行するために各組織で取組が進んでいる。

(3) 互いを尊重し認め合う人間性の向上

自己肯定感を高めるとともに、相手の良さや立場を理解して対応できる力を向上する。

教員肯定的回答回答 100%

① 櫻の3つの基本ルール（大切にする、素直・正直、気づく）の具現化に関連させ、生徒一人一人が地域社会の一員として必要な、社会性や規範意識を身に付けられるよう実践を重ねる。

学校行事等、常に【櫻 大切にする 素直・正直 気づく】を基本ルールの共通言語として用いて、この内容に基づく目標を立て、スローガンを掲げ、計画的に取り組んだ。この共通言語は様々な場面で指導に生かされ、生徒の理解は浸透している。また、生徒もこの基本ルールを大切にしている。場面、場面で生徒がこの言葉の具現化のためにどのような活動をすべきかについて、十分理解を図ることができている。生徒総会や学級活動において、この基本ルールをもとに改善点等を出し合い、在校生がつくり上げたものにしていくと、さらに基本ルールを大切にする生徒が増えると考えている。本校では「温かい学級づくり」や「レジリエンス」というキーワードも大切にしていく。令和7年度も引き続き、基本ルールを基に指導を継続していく。

年度当初、学期始め、座席替え等のタイミングで、構成的グループエンカウンターを開催し、よりよい集団づくりに努めた。今年度は今まで行ってきた構成的グループエンカウンターのデータを整理して、今後の指導にすぐ生かせるようにした。また、三者面談・ハートフルウィーク等を実施し、コミュニケーションを図る場面設定をしてきた。月に1回は、生活に関するアンケートを行い、生徒の現状把握に努めた。その結果、仲間との関わり方が上達し、自分を見つめる力が高まったりする等、人間関係形成能力を高めていくことへの意識が高まったと考える。引き続き継続指導を行う。

② いじめを受けた等の訴えや、不登校生徒に親切・丁寧・迅速に対応する。

「いじめ」の未然防止に努めるために、特別な教科 道徳をはじめとしてLGBTQや障害等について学ぶ機会を設定した。また、道徳や学活等を利用して、いじめ防止の意識を高める取組を意図的・計画的に取り上げた。生徒のアンケートからも「いじめはいけない」という意識は高まっている。反面、「どんなことがいじめに当たるのか」という意識や相手への配慮が

足りず、いじめ問題として学校が対応するケースもあった。今後は、いじめの定義やケースを想定した学習をさらに展開し、生徒一人一人の行動の在り方を考える実践が必要と考える。

### ③ 特別な支援を要する生徒に関する情報を全職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。

学校生活調査とともにQ-U調査を分析することによって、諸問題を抱える生徒への個別の支援を行った。「先生たちは、生徒が相談しやすい」の質問で肯定的な回答をした生徒は71.5%となった。(+1.8%) 個別に丁寧に対応しているが、相談しにくいという面も考えられるので今後も個別の対応を行うとともに、集団の質を高める取組を継続していく。不登校生徒にも、タブレットや電話でこまめに連絡をしていく。今後も教育的予防に重点をおき、学校組織全体で不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図る。

\*校長のリーダーシップは発揮されているかでは、教員肯定的回答が77%となった。(+9%)

今後も指導の重点を教員、保護者に伝えていく。また、働き方改革を進め、「働きやすい職場」を目指す。

\*コスト意識をもち、予算等が有効に活用されているでは、教員肯定的回答が86%となった。

(+9%) 校務PCを活用し、ペーパーレスを推進することができた。

\*教科「日本語」の授業の充実に取組んでいるでは、教員肯定的回答が66%となった。(+28%) 「レジリエンス」などと関連付けて実施している。表現では、構成的グループエンカウンターを実施。また、哲学では、人とのかかわりについて考えるや生きることについて考えるなど、マナー教室やLGBTQの講演などを通し、考え、伝えることを通して、「深く考える」学習を進めていく。

\*家庭や地域とも連携をして「人格の完成を目指して」の取り組みが進められている。では、教員の肯定的回答が77%となった。(昨年と同じ) 多くのご家庭にはご協力を得ている。今後も「生徒の人格の完成を目指す」よう取り組むが、他者を尊重する姿勢や地域でのよい振る舞いなどについて指導する必要がある。道徳を通して指導を継続するとともに。今後もご家庭の理解が得られるよう丁寧に指導をしていく。

\*「学び舎」の特色ある教育活動が実施されているでは、教員肯定的回答が94%となった。(+40%) 小学6年生を中学校に招き、中学教員の授業を体験してもらった。中学生は各授業で少人数であるが手伝いとして小学生のサポートを行った。小学生にとっても好評な一日となった。また、「学び舎」内の研究を今後協力して推進していく。

\*部活動を全職員で組織的に実施されているでは、教員肯定的回答が80%となった。(+6%) 練習時間の設定を守り、実施することでルールを守った活動をしていく。来年度は活動時間を1年間通して90分間の活動をすることとした。生徒の放課後の活動にゆとりをもたせ、どの顧問でも同じような活動にできるよう調整した。教員には、「生徒の興味の高い活動なので負担を感じることもあると思うが、できる範囲で生徒の活動を支えてもらいたい」と伝えている。

保護者の皆様にもご理解、ご協力を願います。